

安全データシート

作成日 2016 年 6 月 1 日

1. 製品及び会社情報

製品名	: CP-5E
会社名	: 極東製薬工業株式会社
住所	: 東京都中央区日本橋小舟町7番8号
担当部門	: 営業学術部
電話番号	: 03-5645-5664
FAX 番号	: 03-5645-5703
製品コード	: 27203
緊急連絡電話番号	: 03-5645-5664

2. 危険有害性の要約

GHS 分類は、「3. 組成、成分情報」、「11. 有害性情報」及び「12. 環境影響情報」に基づく。

GHS 分類

健康に対する有害性

・急性毒性(経口)	: 分類できない
・急性毒性(経皮)	: 分類できない
・急性毒性(吸入-ガス)	: 分類対象外
・急性毒性(吸入-蒸気)	: 分類できない
・急性毒性(吸入-粉塵・ミスト)	: 分類できない
・皮膚腐食性/皮膚刺激性	: 分類できない
・眼に対する重篤な損傷性/刺激性	: 分類できない
・呼吸器感作性	: 分類できない
・皮膚感作性	: 分類できない
・生殖細胞変異原性	: 分類できない
・発がん性	: 分類できない
・生殖毒性	: 分類できない
・特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分2 (中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器系)
・特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分2 (中枢神経系、心臓、呼吸器系)
・吸引性呼吸器有害性	: 分類できない

環境に対する有害性

・水生環境有害性(急性)	: 分類できない
・水生環境有害性(慢性)	: 分類できない
・オゾン層への有害性	: 分類できない

GHS ラベル要素



注意喚起語	: 警告
危険有害性情報	: ・中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器系の障害のおそれ ・長期間にわたる、または反復ばく露による、中枢神経系、心臓、呼吸器系の障害のおそれ
注意書き	[安全対策] : ・粉塵/ミスト/蒸気を吸入しないこと。 ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

[応急措置] : ・ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
・気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。

[保管] : なし

[廃棄] : ・内容物及び容器を認可された廃棄物処理施設に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物
化学名又は一般名 : データなし

成分	化学特性 (化学式等)	CAS No.	濃度又は濃度 範囲(含有量)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)
Hydroxyethyl starch	データなし	設定されていない	—	設定されていない
ジメチルスルホキシド	(CH ₃) ₂ SO	67-68-5	—	2-1553
エチレングリコール(1)	HOCH ₂ CH ₂ OH	107-21-1	5%	2-230
塩化ナトリウム	NaCl	7647-14-5	—	1-236
危険有害成分	: エチレングリコール			

4. 応急措置

吸入した場合 : 該当しない。
皮膚に付着した場合 : 多量の水で石鹸を用いてよく洗い流す。炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける。
目に入った場合 : 15分以上水で洗浄する。瞼を広げ、眼をあらゆる方向に動かす。異常があれば医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合 : 口をすすぎ、直ちに医師の処置を受ける。無理に吐かせてはならない。意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水、炭酸ガス等
使ってはならない消火剤 : データなし
火災時の特有危険有害性 : 消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。
消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材 : 密閉できる空容器に回収する。こぼした場所は、ウエス、雑巾等で拭き取る又は大量の水で洗い流す。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い
技術的対策 : 特になし
局所排気・全体換気 : 特になし
注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。使用後は容器を密栓する。取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。

安全取扱い注意事項	: 目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。
保管	
技術的対策	: 特になし
適切な保管条件	: 容器は密栓し、室温で保管する。
混触禁止物質	: データなし
安全な容器包装材料	: PETG

8. 暴露防止及び保護措置

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

設備対策	: 取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備を設置する。
管理濃度・作業環境評価基準	: 設定されていない
許容濃度	ACGIH; (1): Ceiling: 100 mg/m ³ aerosol only
保護具	
呼吸器の保護具	: 保護マスク
手の保護具	: 保護手袋
目の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 無色～淡黄色の液体
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点／凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし
自然発火温度	: データなし
燃焼性	: データなし
燃焼又は爆発範囲 上限・下限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重(相対密度)	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール／水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	: データなし
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: データなし
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

混合物としてのデータはない。各成分の情報を記載する。

急性毒性

- (1): ・急性毒性(経口): ラットを用いた経口投与試験で、LD50 4000-10200 mg/kg(CICAD 45 (2002))の報告がある。
 ・急性毒性(経皮): ラットを用いた経皮投与試験で、LD50 10,600 mg/kg (CICAD 45(2002)) の報
-

告がある。

皮膚腐食性・刺激性

- (1): CICAD 45 (2002) にウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験結果「mild dermal irritation in rabbits and guinea-pigs」が報告されている。

眼に対する重篤な損傷・刺激性

- (1): ウサギを用いた眼刺激性試験結果の「エチレングリコール（液体又は蒸気）のウサギの眼への短時間暴露は、角膜の永久傷害を伴わない結膜への刺激をもたらす」(CICAD 45 (2002)) との報告がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

- (1): ・皮膚感作性：パブリックコメントにある OECD SIDS SIAP の Summary に、「エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコールは皮膚感作性を引き起こさない“EG, DEG, TEG and tetraEG have not induced skin sensitization.”」と記載されている。

生殖細胞変異原性(変異原性)

- (1): CICAD45(2002)の記述から、ラットの優性致死試験で陰性、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験(染色体異常試験/小核試験)で陰性である。

発がん性

- (1): ACGIH(2001)で A4 に分類されている。

生殖毒性

- (1): GHS 国文書 3.7.2.5.5 には、作用機序がヒトには該当しないことが示された場合には、実験動物の生殖に有害影響を生じるような物質でも分類すべきでないと記載されている。

特定標的臓器、単回暴露

- (1): ヒトについて、「誤飲後 34 日以降に意識障害、痙攣、昏迷状態がみられ、血液科学的検査では尿素窒素、クレアチニン及び尿酸が増加、尿検査で蛋白尿及び血尿がみられ、腎障害が認められている。腎生検で尿管管に組織学的変化がみられている。また、肺の軽度なうっ血がみられた」 「急性影響は 4 段階に分けられる。まず暴露後 30 分から 12 時間後に起こる中枢神経系への作用、次に暴露 12-36 時間後に起こる心肺系への影響、さらに第 1 及び第 2 段階で死亡(エチレングリコール)を免れた者にみられる腎臓障害、そして中枢神経系の変性である。」(CERI ハザードデータ集 97-24(1998))との記載があることから、標的臓器は中枢神経系、腎臓、心臓、呼吸器と考えられた。

特定標的臓器、反復暴露

- (2): ヒトについて、「意識消失、眼球振とう」「軽い頭痛と腰痛、上気道の刺激」(環境省リスク評価書 第 3 巻 (2004))との記載があり、実験動物については「肺及び心臓に炎症性的変化」(環境省リスク評価書 第 3 巻 (2004))との記載があることから、標的臓器は中枢神経系、呼吸器、心臓と考えた。
なお、実験動物に対する影響は区分 1 のガイダンス値の範囲でみられた。

吸引性呼吸器有害性

: データなし

その他の情報

: なし

12. 環境影響情報

生態毒性

- (2): ・水生環境有害性(急性): 魚類(ヒメダカ)の96時間LC50>100mg/L(環境省生態影響試験、2001)の報告がある。
・水生環境有害性(慢性): 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10⁶mg/L(PHYSROP Database、2005))、急性毒性が低い。

残留性/分解性 : データなし

生体蓄積性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 少量の場合はおがくず、ウエス等に吸収させて開放型の焼却炉で焼却する。排水は活性汚泥等の処理により清浄にしてから排出する。 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 なお上記方法による処理が出来ない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号	: 非該当
品名	:
国連分類	:
容器等級	:
海洋汚染物質	: 非該当
注意事項	: 輸送前に容器の破損、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。直射日光を避ける。

15. 適用法令

労働安全衛生法	・名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号・別表第 9)【75 エチレングリコール】 ・名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第 57 条第 1 項、施行令第 18 条第 1 号、第 2 号・別表第 9)【75 エチレングリコール】
---------	--

16. その他の情報

引用文献

1) 和光純薬工業株式会社	安全データシート	
(W01W0105-0098JGHEJP、2015 年 8 月 10 日)、		
2) 毒物劇物データハンドブック	毒劇物安全性研究会編	薬務広報社
3) 危険物データブック	東京消防庁 警防研究会編	丸善
4) 職場のあんぜんサイト		
5) ezCRIC 2016		日本ケミカルデータベース株式会社
6) 化学物質総合情報提供システム		製品評価情報基盤機構

この SDS は基本的な取扱いについて記述したもので安全保証を意図して作られたものではありません。

また、危険・有害性の評価は現時点で入手できる資料、情報、データ等で作成しておりますが、全ての資料を網羅した分けではありませんので取扱いには十分注意して下さい。